

お寄せいただいた意見	市の考え方（対応）
<p>「基本施策V -2 子育て家庭にやさしい生活環境の整備」において、「地域共生」が子どもを育てることから下関市菊川町大野に開設されている「中村さん家」を参考にした「地域共生ホーム」の設立、活用を加えていただきたい。老人施設、児童館、母子センター等、個々の施設で事務的な対応や新鮮味の不足になりがちな環境を「地域共生ホーム」は、それぞれの年代、経験等の持ち味が触れ合う中で解決し、「生活に張り」と「社会性」を育てると言える。</p>	<p>地域の住民が共に支えあって子育てを行うことができる環境づくりという観点では、地域の交流拠点としての「地域共生ホーム」は非常に意義のある施設であると認識していますが、現時点では実施主体や施設整備、福祉施策の融合等の諸課題を調査・研究させていただきたいと考えますので計画書への反映はいたしません。なお、子育てに関する地域交流や世代間交流の拠点として既存の老人施設や児童館の活用についても今後の検討課題とさせていただきます。</p>
<p>小中学校ではどのような方策で子どもたちを育成するのが示されていない。何が問題となっているのかを把握し、教育委員会と連携して行動計画を立案すべきだ。</p>	<p>学校教育に関しましては、「基本施策IV -1 学校教育の充実」において、①学校での教育環境の整備、②信頼される学校づくり、③いじめ・不登校等に対する支援の充実といった3つの施策を掲げ、子どもの生きる力の育成に向けた取組みを教育委員会と連携しながら行うこととしています。</p>
<p>子どもが安心して遊べる運動場・公園が無い。あっても無管理の状態であるため遊べる仕様とはなっていない。</p>	<p>市内には150か所以上の児童遊園や児童公園等があります。特に地域に身近な児童遊園については、地元管理となっているものが多くありますので、今後も自治会と連携しながら子どもの遊び場である公園等の維持管理に努めます。</p>
<p>後期の行動計画を立案するに当たっては、景気回復・需要の増加、衛生、防犯、様々な分野の人々の協力が不可欠である。山陽小野田市の全所課が、横の連携を密にして立案すべきである。</p>	<p>本計画は、児童福祉分野だけでなく、母子保健、教育、商工労働、防犯など多様な分野の関係部署が連携して立案・策定しています。今後の取組みにつきましても、関係部署の横の連携を密にしていきたいと思います。また、景気の動向やニーズの変化につきましても、定期的に計画の進捗状況を点検・評価を行う中で、必要に応じて目標等の見直しを行います。</p>
<p>計画の中に検証・評価の項目を入れるべき。</p>	<p>本計画の進捗状況の点検・評価につきましては、「山陽小野田市次世代育成支援対策推進協議会」において毎年実施することとしており、第7章「計画の推進にむけて」に関連の記述をしています。</p>
<p>第5章「施策の体系と事業計画」に本計画の統括責任部門が明記されていない。個々の市担当課等は示されているが、本計画の行動は、各部門がそれぞれの特色と責任を活かしあって有機的に動いてこそ成果を得るものと認識している。そのため、常に総合的見地に立って進捗状況を把握し、分析しながら行動の修正を提案できる統括責任部門を明記する必要がある。</p>	<p>本計画の推進にあたっては、市内16課2室が関係しますが、総合的な見地から計画の進捗状況を把握し、分析しながら計画を修正、提案する役割は「山陽小野田市次世代育成支援対策推進協議会」が担っています。その協議会の庶務や市内関係課との連絡調整は児童福祉課が担当しています。</p>